

月刊 まち・コミ

2008年7月号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>



● 今月の注目記事 ● P1～P4 出石市民農園支援の4年間

出石市民農園支援の4年間

～出石町鳥居地区のみなさんを元気づけたい～



兵庫県豊岡市出石町鳥居地区（以下、鳥居地区）は、2004年10月の台風23号により、出石川が決壊するという被害に遭いました。まち・コミは、阪神・淡路大震災の復興まちづくりで得た教訓を活かし、短期復旧救援だけではなく、復興まちづくり、そして日常のまちづくりを支援する団体であるため、コミュニティの再建活性化を目指して、活動を続けています。今までの活動の様子を報告します。

鳥居地区は出石川が決壊しましたが、地元の方々が町を守り、リーダーシップを発揮され、そこからまち・コミは多くを学びました。阪神・淡路大震災から10年目を迎えた神戸の人にも、知って、災害時の助け合いを思い起こして欲しいと、まだまだ復旧活動に忙しい、廣井昌利さん（水害時区長）等に御蔵学校（2005年1月8日）の講師として来て頂きました。

廣井さんは御蔵学校で、「被災し農家が元気をなくしている。畑は1年栽培を止めると、次に植え付けをする時困る」と熱く話されました。神戸から出石に向かうという物理的時間と経費、他にも多くの課題が残る中でしたが、廣井さんの想いを受けて、田中保三顧問の元、「義を見てせざるは勇なきなり」、再三再四、被災地に足を運んでくださる藤原氏の応

援も相成り、高ぶった気持ちでスタートしました。まち・コミでボランティアの呼びかけをし、2005年2月から畑のゴミや畦道の泥等をとり、耕す準備をしていきました。地元のリーダーの地域再生への熱い想い、復旧だけではなく、復興をとというコミュニティ支援を目指すため、一丸となり、多くの課題を乗り越えようとなりました。

1年目（2005年3月～2006年2月）

市民農園がいつでも再開できるように、畑の使用できるように継続させること、そして、畑一杯の緑で、元気ができるようにすることを目標としました。（出石作業日77日、作業参加人数：304人）

行ってみると3000㎡。驚きました。一言「広い!!!」

早朝4:30から、日が暮れるまで作業しますが、とて
もとても終わりません。廣井さんが、毎回初めての
作物には肥料蒔きから耕耘、そして畝立て、種まき
まで事前に丁寧にアドバイスをしてくださいました。
また、神戸と出石は車で3時間と遠く、夜半に神戸
を出て来てすぐ作業は大変だろうと、廣井さんがり
んごオーナーの休憩小屋を貸してくださり、その後
も鳥居の方々が様々な好意をくださっています。

2005年3月25日に、初めてじゃがいも植付開始。

2005年4月から、みくら5の屋上で、アスパラと
萼の苗作りを、畑に植えるのと平行して始めました。



屋上での苗作り

毎日、スタッフや
近所の方が水や
りをしてしてくれ
ました。にぎやかに
するためには、看
板がいるという
ことで、看板作り
もしました。絵て
がみを指導下
さっている岸岡
さん(姫路)が、出
石町へ絵てがみ
をしにいつてく
ださいました。

6月に初収穫をしました。廣井さんの指導のおか
げで、初めてなのに、大量に取れました。まさかこ
んなにできると思っていたので、出来すぎて
困るほど(汗) 御蔵に帰ってから夜なべで分量を量
り袋詰めし、朝出します。活動資金を捻出するため、
無謀にも事務所前で販売開始。御蔵のご婦人方を中
心に購入支援をお願いしました。ご婦人という料理
のプロへの売り込みに、メンバーは、手玉にとられ
からかわれたり、腐されながらも、励まされます。廣
井さんから教えてくださった有機無農薬野菜は糖度
が高く食べるとおいしいので定着していきました。
袋を持ってきてくださる方、少々傷物でも選んで
買っていつて下さる方。買いに来て下さっているの
に、いつの間にか野菜のPRをし、我々よりも(?)良

さを熱弁し、売って下さる方、営業し予約を取つて
きて下さる方、作業で汚れた軍手を洗ってくださる
方、そして、「作った野菜を食べる時間ないでしょう。
食べないとPRできませんよ。」と、自ら買った野菜
を料理して届けてくださる方まででてきました。た
だ、事務所近辺だけで乗用車一杯の野菜を頒布して
いても、交通費もなかなか挽回できないという課題
がでてきました。

そして、御蔵だけでは発信効果が弱いと、関係者
からの提案により、5月29日のイベント「炊き出し
体験会・そして絆(震災10周年記念事業)」へ総勢
25名で、共に汗を流して作った野菜を持って、阪神・
淡路大震災と共に、出石町鳥居の被害・復興状況と、
助け合いの大切さを伝えました。鳥居と御蔵のプ
ースはどこにも負けず、人ばかりでした。その後も各
イベントに積極的に参加しました。

2005年7月16日に収穫祭を行いました。出石鳥
居の方と共に農園のPRを込めて、我々が初めて収穫
した野菜でバーベキューをしました(種類が少ない
ので、鳥居の方にはかなり差し入れしていただきま
したが)、翌日には、みくら作業所の方が2トントラッ
クを持参して来て下さり、じゃがいもを御蔵まで運
んで下さいました。2日間で総勢30名が神戸から鳥
居へ向かいました。神戸の多くの方が鳥居の農園を
再建をお手伝いしたいと思いました。

収穫する時期と量が予想できず、春には大根がた



十三フレンドリー商店街の空き店舗前で販売

くさんできすぎたり、予想以上の葉ものになったりしました。11月27日、大阪十三フレンドリー商店街で大根を販売しました。また、御蔵のご婦人方が、漬物づくり大会や、にんじんジュース大会、野菜炒めパーティーや、クリーン作戦後の自治会会議時に、大根炊きを応援してくださいました。

我々まち・コミやボランティアの方も、有機野菜作りは手探りなので、旬もなかなかつかめず、作業が1日に偏ってしまうこともあり、どうしても作業が終わらず、車のライトや懐中電灯を使用して、夜暗い中作業した時もありました。

作業が残り、持って帰ると、御蔵で手伝って頂ける方もいました。じゃがいもの大きさ分けや、たまねぎの保存、黒豆のさやぼり等、出石から帰った日は多くの方が事務所に手伝いに来てくださいました。

廣井さんに農業は、「観察力」「整理整頓」と教えて頂きました。野菜作りの理論(育つ原理、朽ちる原理、有機野菜はなぜ強くおいしいか、流通の仕組み等)についても学びました。売り先も助けて頂きました。2006年1月28日、出石の方から新年会のお誘いがあり、参加させていただきました。

2年目(2006年3月~2007年2月)

水害で一度中止になりかけたため苦しい中、鳥居やすらぎ市民農園の管理組合の話し合いがねばり強く何度ももたれました。まち・コミは再建を待ち望み、2005年に引続き、畑を耕し緑を増やしました。再建が農園管理組合で決定され、2006年10月28日に起工式が行われました。

まち・コミは、2005年においしい野菜ができ、全部無駄にせず食べて頂いた自信ができました。活動継続のために、神戸御蔵の人だけでなく、「月刊まち・コミ」読者の皆様にも有機野菜を買って食べて健康になって応援していただくことになりました。よって発送できる作物を増やそうということになりました。(出石作業日:79回、作業参加人数:185人)

早速、じゃがいも種芋を65kg頼みました。それは

植えると、16m×50mの面積になります。同時に夏野菜や葉物も、12m×50mに植えました。

6月3日、畑近くにお住みの方が、神戸からだと、畑の中を世話するだけでも大変だろうと、周辺の草刈りを黙ってしてくださりました。

たまねぎやじゃがいもは、収穫したものを長田に一度持って帰り、保存。兵庫商会さんにオフィスの一部を借りました。じゃがいもは扇風機で風を当て、調査合宿で来ていた専修大学の学生さんに、まんべんなく乾くようひっくり返してもらいました。

月刊まち・コミ、7月26日からメールで皆様にたまねぎ購入応援のお願いを始めました。きちんと世話をすると7割方獲れました。

11月15日、インドネシアのゴロンタロからアルスディン・ボネさんも参加しました(月刊まち・コミ2008年2月号参照)。阪神・淡路大震災の被災地にも3度訪れ、今回は、インドネシアは水害も多いので、鳥居地区の様子も感じてみたいと訪日の忙しい日程をぬってわざわざ出石に向かいました。真剣に廣井さんの話を聞き、決壊した現場を見ていました。初めての気温5度の世界で農作業も体験しました。

2005年に比べると、台風被害から世間的には一段落し、参加人数も減少する時期でした。しかし、出石に向かう回数は、畑一面に野菜を植えるため、多くなっています。人の少ない時期に東大阪で一緒にまちづくりをしていた近大生の応援。遠く東大阪から近畿大学の学生が9回のべ11名も参加してくださりました。



1列50メートル。畝上げは達成感があります。

3年目(2007年3月～2008年2月)まで

2007年3月25日鳥居やすらぎ市民農園完成イベントが開かれました。117区画の貸し農園と管理棟(レストラン、休憩所、トイレ、シャワー等)が完成しました。

第1段階「地域の核となる市民農園施設を再建しよう」の目標は達成できました。完成後は第2段階に入りました。核となる施設ができたので、ここからは施設等資源を活かし、「コミュニティの持続的な発展を支援すること」。市民農園用地募集を応援することと共に、借りた人と賑やかに交流し、持続的な運営ができるようにすることです。

畑の作業で精一杯ですが、今までの経験を活かし、野菜作りをうまくし、少しでも交流等時間を作るとも益々必要になってきました。(出石作業日:71回、作業参加人数:207人)

完成式では、以前古民家移築の解体時の御蔵学校(但馬の大工田中定氏を講師に迎えた)でお世話になった、但馬学研究会の木村尚子さんと再会しました。木村さんも「但馬を映像で発信する会」の皆様と共に市民農園を借りに来ていました。

農作業の方は、2年を経、2005年2006年は3,4日かかっていたじゃがいもの植え付けを、段取りよくなり、9人1日で完成しました。

だんだん慣れてきましたが、まだまだ完成する作物の3割くらいは、歪な野菜ができます。歪な形の野菜は、割れの原因になったり成長も難しく、水はけが悪いことや虫等の被害に遭いやすいのです。

これまでの経験を活かし、野菜にかかる時間を増やし、元気な品格と教養と益々の栄養のある野菜を作ります。そこで、畝の高さをあげました。何度も何度も土からでてくる茎に土をかけました。「もっと伸びないと、あなたは茎じゃなくて根になっちゃいますよ。もっと大きくなりましょうね」と祈りながら。丹波黒大豆は毎週土を盛りました。また同時に土をいじるので、有機無農薬ですが、雑草もほぼ生えません。

後は、雨の日や一人の時でも何か作業ができるのではないかと、毎週2回行ってましたが、天候や人

数には勝てず、効率の悪い作業や経費を使うこと、他の事業との兼ね合いや、関わる人の体をあまり無理して移動しないような視点も気になり始めました。(なんとか関わって頂ける皆と野菜にうまくしてもらおうと、一週間天気が異常に気になります(汗))

4年目(2008年3月～現在)

過去の記録から読み解き、作付け量に対する、作業人数等がわかってきました。

前の夜に出発し、朝4時からの作業で、夜は日が暮れるまででは、特定の人しか参加できない?ということにやっと気づき、日帰りでも参加できる日を作り多くの方に交流してもらおうと考えています。

畑に行くのは週1度ですが、常時生えるアスパラを収穫し、頒布してくださっている鳥居の女性もいます。

市民農園主催の収穫祭では、長田名物のそばめしと、台湾交流事業でお世話になっている邱明民さん手作りの蕪まんじゅうが好評です。

農作業は「愛情をかけて待つ」等が大事で、人に接する時も、生きています。雑草を抜く時は、想いは無になり、集中力が高まります。

スタート時は、やる気だけで動き出している本人達も「これでダメか」と思う不安の中で、ほんとに多くの方の応援により、なんとか報告できる形になってきました。まだまだ課題は多いですが、多くの方が少しずつ支え合い関わって頂ける幸せを胸に、さらなる活性化に取り組んでいきます。今後ともご指導、ご協力よろしくお願い致します。

是非、兵庫県出石へ足をお運びになる際は、ご一報くださいませ。一緒に作業・・・いや、案内させていただきます。



雑草抜きも、根気のいる仕事です

出石市民農園関係データ

みなさまの応援、感謝しております

・イベントでの広報、頒布先

元町商店街夜市、十三フレンドリー商店街、神戸市、兵庫県、長田神社ラジオ体操の会、
兵庫県労働団体有志、おもいけ園、橋本さん、グループホーム田園、、、等

・取り上げてくださった新聞記事、報道等

「神戸新聞」「朝日新聞」「毎日新聞」「読売新聞」「日本経済新聞」「大阪日日新聞」

「読売放送」「SUNTV」「毎日放送ネットワーク1.17」

「サンケイリビング」「学術誌 減災」「但馬TV」「るんるんテレビ」他

<http://run2tv.sakura.ne.jp/modules/videocast/view.php?vid=355>

<http://www.e-tajima.jp/>

・シンポジウム等参加

「防災とボランティアのつどい 内閣府主催(2007/1/21)」

「防災と食料を考えるフォーラム～ごはんを食べよう国民運動大会 in兵庫」

大地のつぶやき

「まち協解散の顛末記」その後(Ⅲ)

これを書いていると、自治会の会計監査役のH氏がやって来た。「鎮魂モノメントのタイムカプセルの中に、今仏壇にある位牌を入れられないか。図面でタイムカプセルの径は分かっているが、中に何が入っているのか教えて欲しい。今の役員で知っている人がいなくて、分かっているのは田中さんだということであつた」と。「白木の位牌が真ん中に入っていて、周りに御遺族が持つてこられた小さな遺品が少しと、御遺族持参の写経と、写経の会で集めた写経が入っている。しかしHさん、位牌がカプセルの中に入れるのか、それとも従来通り仏壇にあるのか、どっちが座りがよいとお考えか聞かせて下さい」と話したが、「私には分からん、役員会で既に決まったことだから」と譲らない。月刊まち・コミ一月号に書いた往復書簡四通のコピーを見せたが、やはり「私にはわからない」。どうしたら入るかそれを聞くのが私の役目。役員会で決まった事だから」と重ねて問われ、それから一步も引かぬ態度に私の方が根負けして、「今仏壇にある位牌の寸法は正確に知らないが、台座の部分はずし、白木の位牌を傾ければ多分可能でしょう」と答えていた。答えながら、随分乱暴な話をしているなど気付いたが・・・。

最近の社会は「分からない」ことへの耐性が弱まっていると聞いたが、まさにその通りだ。せっかく頂いたものの扱いがこれでは、淋しい限りだ。贈り主に対する慮はないのだろうか。区画整理による、余りにも急激なまちの変化に、心が追いついていない。何かに不安を感じると、相手のことを微塵も斟酌することなく、手段を選ばず、徹底的に追いつめ、追い落とししてしまう。その行為の善し悪しにさえ気付かないのか、気付こうとしないのか。まさにバーチャル時代で、ゼロカイチしかない世界では思いやりから程遠い。震災の教訓は、家族や友人、隣近所との人間関係を如何にうまくつづけていくかにかかっている。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告

6/1 ~ 6/30

- 6/1 出石市民農園
- 6/4 月刊まちコミ印刷
- 6/4 研修受入(人と防災未来センター
マネジメントコース:ベーシック 都市
の復興)
- 6/5 修学旅行受入(可児市立蘇南中学校)
- 6/7 出石市民農園
- 6/9 修学旅行受入(調布市立第八中学校)
- 6/10 修学旅行受入
(名古屋市立牧の池中学校)
- 6/10 修学旅行受入
(横浜市立市場中学校)
- 6/12 修学旅行受入
(岐阜市立藍川北中学校)
- 6/13 区民まちづくり会議委嘱式
- 6/15 出石市民農園
- 6/15 ~ 20 台湾民家移築事業で台湾へ
- 6/19 修学旅行受入
(横浜市立泉が丘中学校)
- 6/22 専修大学調査合宿打合せ
- 6/27 出張講演(日本大学生産工学部)
- 6/27 出張講演(船橋市宮本自治会)
- 6/28 修学旅行受入おつかれさま会

ご支援、ありがとうございます。

6/13 ~ 6/30

賛助会員(新規・継続)

- 熊坂ひろ子(東京都) 浜崎としずみ(兵庫県) 津田四郎(兵庫県) 岩崎正朔(香川県) 増永理彦(兵庫県)
 高橋祐子(大阪府) 陳浩明(大阪府) 島田誠(兵庫県) 笛岡賢司(静岡県) 折田泰宏(京都府) 谷川一成(兵庫県)
 岩崎信彦(京都府) 北後明彦(兵庫県) 中山貴美子(兵庫県) 鈴木有(滋賀県) 関口千鶴子(兵庫県)
 橋本敏子(千葉県) 森勢郁生(東京都) 大塚康央(大阪府) 池田寛(香川県) 田中一行(東京都)
 玉野和志(東京都) 王柏群(兵庫県) 芦沢吉朗(青森県) 吉川俊雄(山口県) 樽本憲昭(兵庫県)
 小野秀男(埼玉県) 碓田智子(大阪府) 下土居希(東京都) 栗原昭顕(広島県) 田中邦彦(兵庫県)
 寄付 梅田和江(埼玉県)
 協力 社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいております。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。
 まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 7月28日から、専修大学の学生さん達が、調査合宿に来られます。今年で3年目。どんな学生さん達に出会えるか楽しみです。(戸)

年会費

- 個人・法人 年間5000円
- 学生 年間3000円

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2008年7月1日発行
 編集/発行 まち・コミュニケーション
 定価 100円

御蔵事務所 〒653-0014
 神戸市長田区御蔵通5-5
 TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東京事務所 〒162-0052
 東京都新宿区戸山1-24-1
 早稲田大学文学部浦野研究室内

神奈川事務所 〒214-8580
 神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1
 専修大学文学部大矢根研究室内

e-mail m-comi@bj.wakwak.com
 URL <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>